

皆様、こんにちは。

カトリック府中教会、アンドレアです。改めて、主のご復活の喜びを申し上げます！

イエスは弟子たちにあいさつした後に、次のように語ったとヨハネは記しています。「父がわたしをおつかわしになったように、わたしもあなたがたをつかわす」。イエスはこう言ってから、彼らに息を吹きかけてさらに言います。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたがゆるせば、その罪はゆるされる」(21-23 節)。これこそが、イエスが罪のゆるしのために復活したその日に示されたいつくしみの意味です。このイエスのいつくしみの目に見えるしるしは、心の平安と、主と新たに出会うことによる喜びをもたらします。

復活祭の光の中のいつくしみは、「真の気づき」を感じさせてくれます。このことが重要です。いつくしみは真の気づきです。ご存知のように、真の気づきはさまざまな形で体験されます。感覚を通して、直観によって、理性や他のさまざまなものを通して体験されるのです。そしていつくしみを通して体験されます。いつくしみは心の扉を開き、神の神秘とわたしたち自身の存在の神秘をより深く理解させてくれるからです。いつくしみはまた、暴力、憎しみ、復しゅうは無意味であり、そうした感情をもった人は最初の犠牲者となることを教えてくれます。いつくしみはさらに、心の扉を開き、とくに社会の片隅に独り、追いやられている人々に寄り添うことができるようにしてくれます。それらの人々が唯一の御父の子である兄弟姉妹であると、人々はいつくしみによって感じるからです。いつくしみは慰めを求める人々に対する認識を高め、適切ななぐさめのことばを見つけられるよう助けます。

